

府中市における 精神障害にも対応した地域 包括ケアシステムについて

令和4年11月29日（火）

府中市福祉保健部障害者福祉課



精神障害にも対応した地域包括ケアシステム とは

精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしい暮らしができるよう、医療・障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労）、地域の助け合い、普及啓発（教育）が包括的に確保されたシステムのこと。

- ・精神障害はだれもがかかりうる病気...他人事ではない
- ・環境を整えば地域生活が送れる精神障害のある方
- ・入院が長期化している方、地域生活が安定しない方
- ・高齢・身体疾患など様々が課題を抱える方

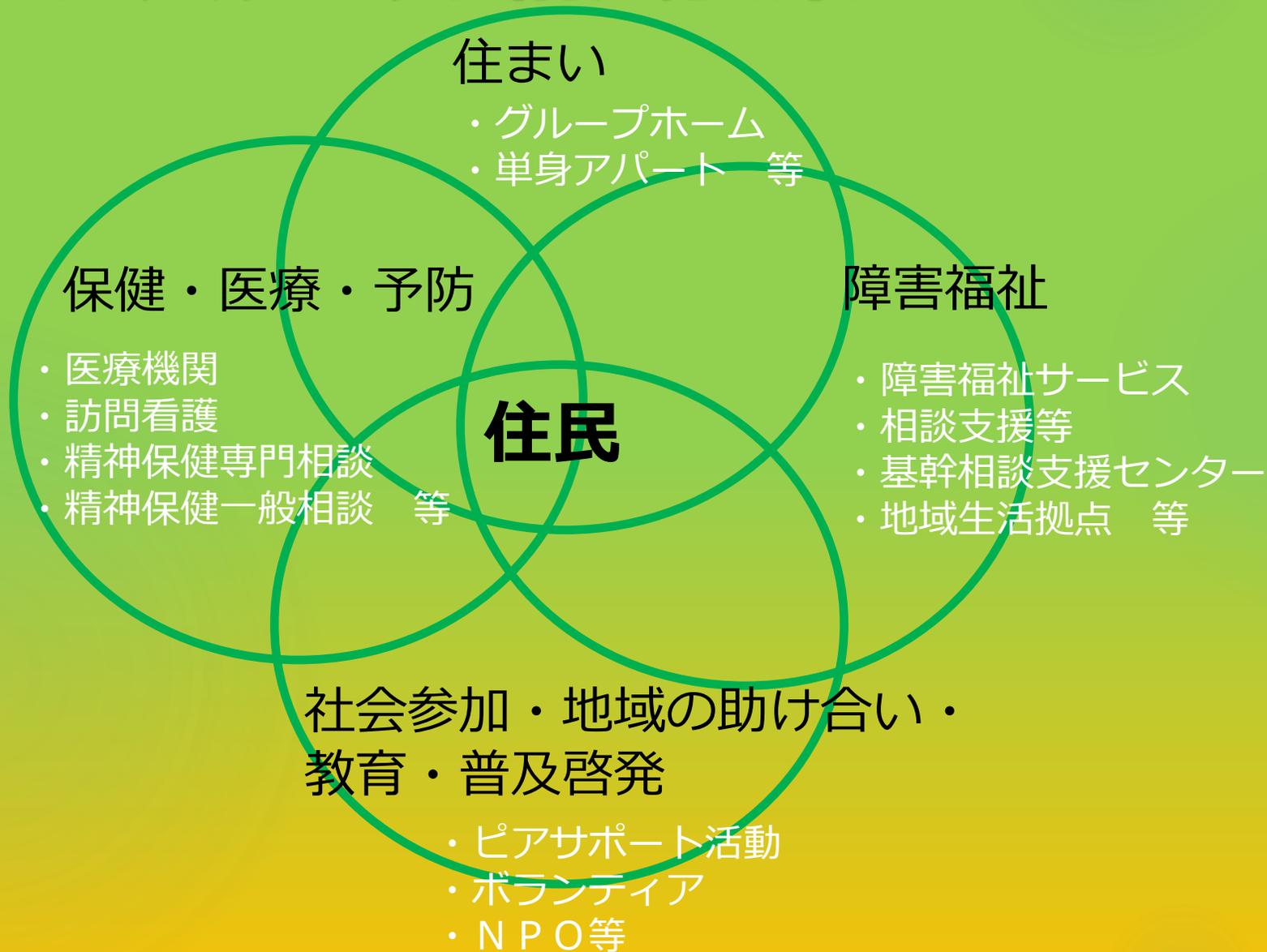


地域の課題として、「いかにして地域での生活をささえてけるか」を当事者・家族・多業種・事業所・行政機関などで考えていく

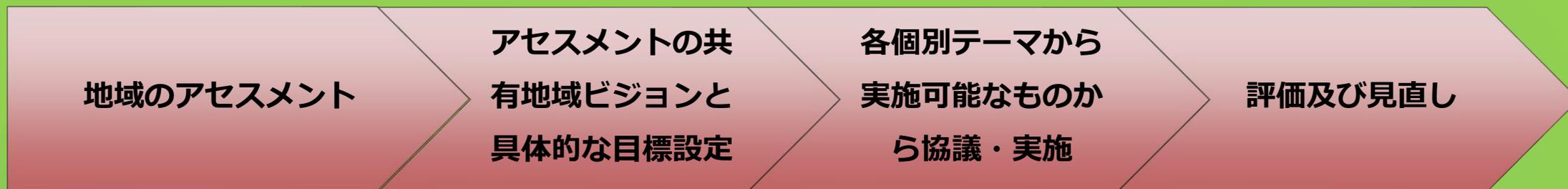
協議の場が必要



包括ケアシステムの構成要素



包括ケアシステムのプロセス



令和2年度から令和3年度にかけて、精神保健に関わる事業所や家族会等、様々な立場の方々にご参加いただき、地域の課題の抽出（地域アセスメント）を行った。

地域アセスメントを行い、課題を共有実施可能なものから取り組んでいくための協議



府中市の取り組み

障害福祉計画	第5期（平成30年～）	第6期（令和3年～）
開始時期・回数	令和2年・1回	令和3年・2回
内容	コアメンバー（※医療機関・指定一般相談事業所等の地域移行に係る支援機関を中心としたメンバーのこと）会議を実施。サポートセンターきぬたの金川洋輔さん（現厚労省障害福祉専門官）を招き、包括ケアシステムについての勉強会・意見交換を実施	令和3年7月13日と令和4年3月25日に実施。意見交換や事後アンケートなどもとに地域アセスメントシートの作成を開始



これまでのまとめ



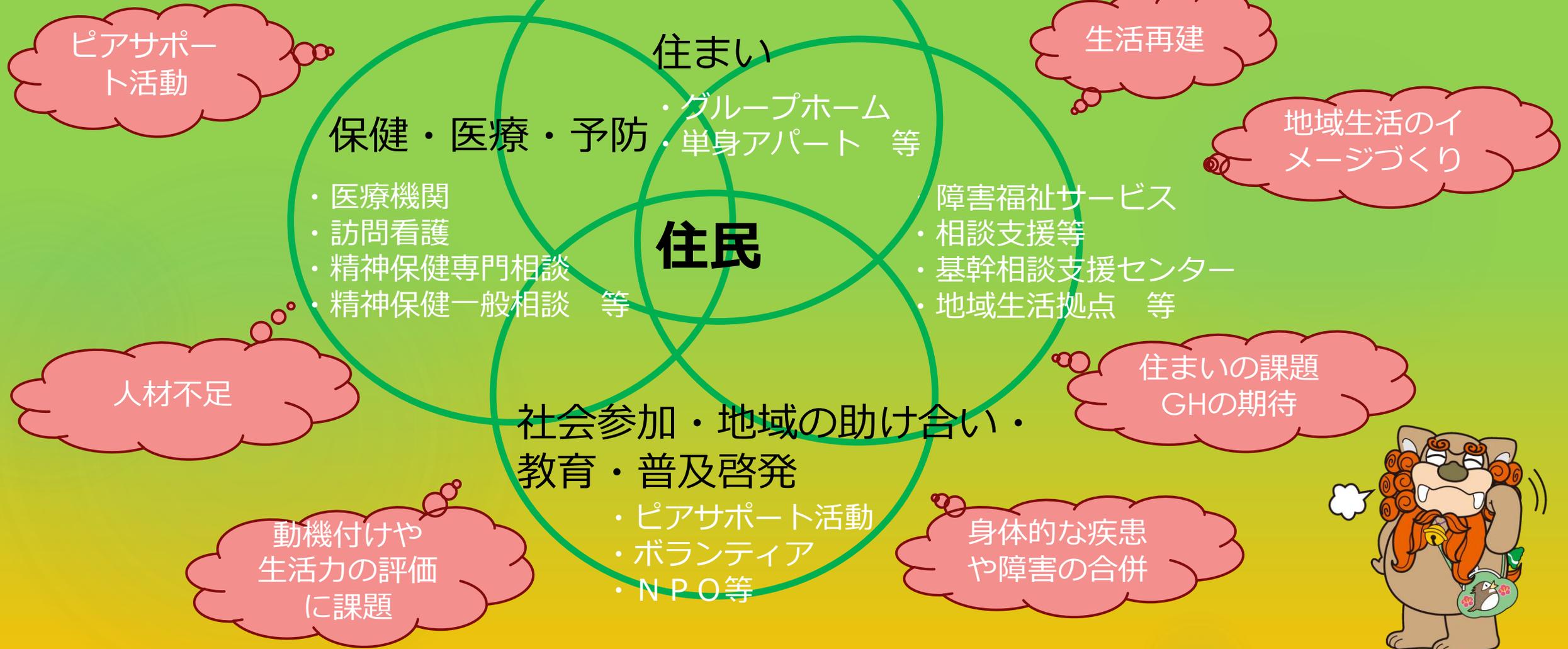
※資料 2

「地域アセスメントシート」をご覧ください。

地域移行（入院から地域生活へ）と**地域生活**（地域生活の定着のために）の両輪での検討が大切。

→地域で生活したいと思っている方への退院のための支援と合わせて、地域で安定して生活していくために必要なシステムの構築を目指していく。

包括ケアシステムの構成要素と地域アセスメントを照らし合わせてみると...



できていること・やれていること さらにやれそうなことにも着目して

- ▶ 自分たちではできていないけれど、別の事業所ではできている
- ▶ こんな取り組みしたい、こんな取り組みなら手伝える
- ▶ 同業種で連絡会を作りたい、情報共有したい、事例検討会をしたい など
- ▶ 精神障害についてもっと知りたい、理解を深めたい



今後の連絡会議に向けて

本日の話し合いの中で、困っている事を共有することだけでなく、私たちは「**こんなこともできている**」「**もう少しこんなことができそう**だ」「**こんな協力ができるかも**」などの**発見**をしていただき、「**こんな取り組みを継続したい**」「**こんな新しい協力・連携ができたらいいな**」など、小さなことでも構いませんので、精神障害のある方の地域での生活を支えていくために、できることや目標を共有できたら幸いです。



今期の「にも包括」連絡会議について

令和4年

- ▶ 地域アセスメントについて共有
- ▶ 地域の社会資源について共有
- ▶ 顔の見える関係作り
- ▶ できそうなことや目標を確認



- ▶ すでにある資源や取り組みについて
- ▶ お互いに利用可能

令和5年

- ▶ 取り組み内容を確認・評価
- ▶ 継続できることや更に取り組みそうな事の共有



- ▶ 今後の取り組み内容を確認・評価
- ▶ 今後、更に深めていきたい内容を確認